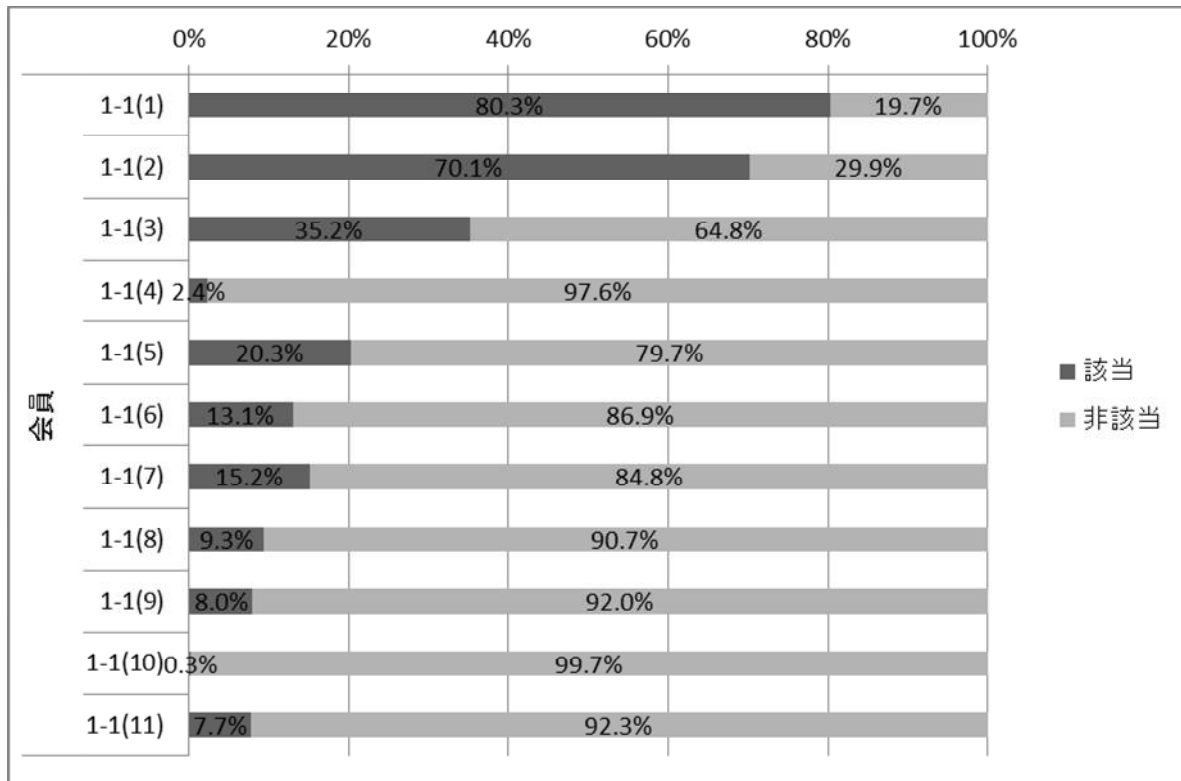


図17. 入会の動機



- 1-1(1)ケアマネとしての質の向上(研修に参加したかったから等)
- 1-1(2)法改正など新しい情報を早く知ることができると思ったから
- 1-1(3)介護支援専門員同士の情報交換ができるから
- 1-1(4)委員として活動したかったから
- 1-1(5)ケアマネジャーの仕事が分かるかと思って
- 1-1(6)人脈作り
- 1-1(7)職場の上司に入会するように言われたから
- 1-1(8)友人や同僚からの勧め
- 1-1(9)地元のケアマネジャー連絡会で入会のチラシが配られたのがきっかけで
- 1-1(10)特になし
- 1-1(11)その他

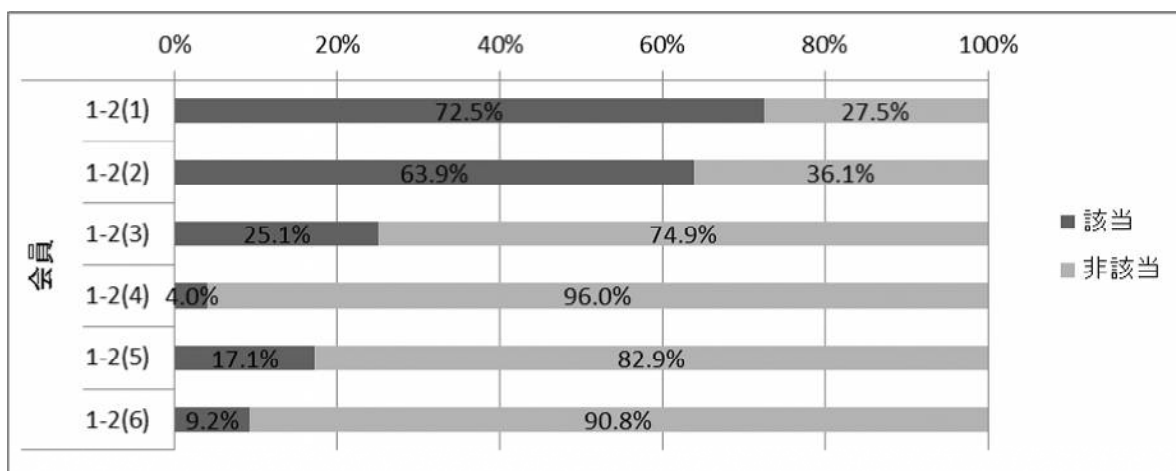
(5) 入会してみて実現したこと 会員・退会者

8割の人の入会動機だった「ケアマネとしての質の向上」について、7割の人が実現できたと評価している。続いて「最新情報を入手」「情報交換」と続く。「情報交換」25.1%と「人脈作り」の9.2%と合わせると、34.3%の会員のコミュニケーションが深まったことを実感していることが分かる。

「委員として活動したかったから」を入会動機とした人は、2.4%だが、入会後に実現したことは、4%で、委員としての活動に意義を感じる人が増えている。

また、「ケアマネジャーの仕事がわかるかと思って」入会した人は20.3%だが、入会して実現したと評価している人は、17.1%と、実現率が上位3項目よりも高い(図18)。 それに対し、退会者は、ほぼ実現したことがなかった。

図 18. 入会して実現したこと



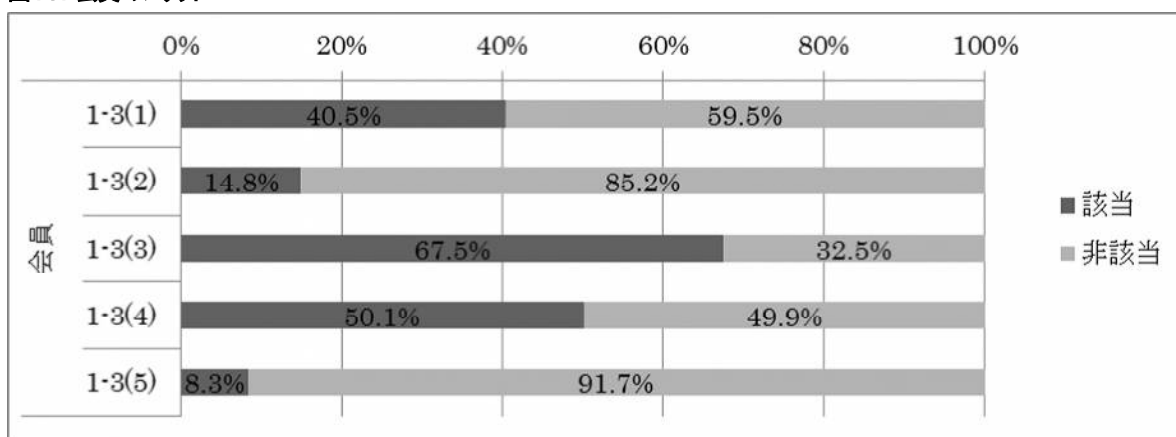
- 1-2(1)ケアマネとしての質の向上(研修に参加したかったから等)
- 1-2(2)法改正など新しい情報を早く知ることができると思ったから
- 1-2(3)介護支援専門員同士の情報交換ができるから
- 1-2(4)委員として活動したかったから
- 1-2(5)ケアマネジャーの仕事が分かるかと思って
- 1-2(6)人脈作り

(6) 会員のメリット 会員・退会者

現会員、退会した方ともメリットを実感しているのが「研修を一般より安く受講できる」が67.5%と一番高かった。続いて、「都の情報が入りやすい」50.1%、「広報やホームページで、他の地域の情報を知ることができる」40.5%であった(図19)。質の向上に努めたいという意欲を持った人が会員になり、金額的にも安くなることにメリットを実感していることを認識し、会の運営をしていくことが会員の期待にこたえることになることがわかる。

「その他」の欄には、ケアマネジャーの地位向上のため、制度の向上のために役立つことができるという人から、あまりメリットはないと感じながら、一応所属しておこうという人まで様々な意向があった。

図19. 会員のメリット



- 1-3(1)広報やホームページでほかの地域の情報を知ることができる
- 1-3(2)会員同士の交流ができる
- 1-3(3)東京都介護支援専門員研究協議会主催の研修を一般より安く受講できる
- 1-3(4)都の情報が入りやすい
- 1-3(5)その他

(7) 退会理由 退会者

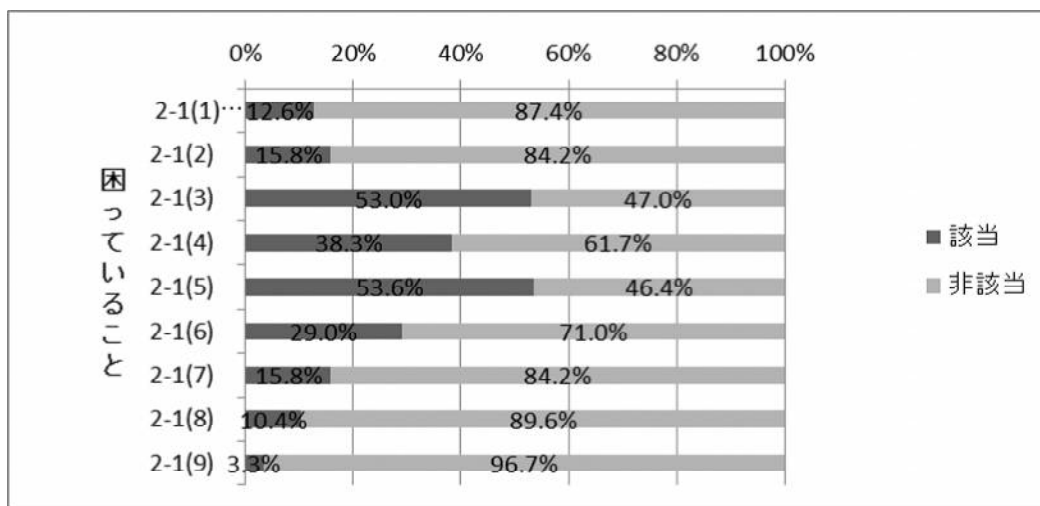
「研修会等に参加目的だったが時間がなかった」など研修の参加がむずかしいという理由が4件、職場の変更と退職が2件、自分には必要がないと思ったが1件であった。

(8) 困っていること 未入会者・退会者

未入会者が困っていることの第1位は「自分の専門分野以外の知識の不足」(53.6%)であった。ケアマネジャーには、専門職同士のネットワーク化をはかり、利用者のためにチームアプローチしていく要としての役割が求められるが、各種専門職同士でカバーし合って利用者支援をしているのか心配な結果であった。僅差で次が「厚生労働省などの新着情報をゆっくり読んで理解する時間がない」(53%)であった。また、3年に1度の報酬改定等で次々出される公文書を読み込むことができないことは、入会していてもいなくても苦勞している部分だが、CMAT からアマネジャー関係部分の改定資料やQ&A等の会員への情報提供は入会の動機につながるものと考えられる。

次に選択された項目が、「スキルアップを図りたいと思うがなかなかできない」(38.3%)「よそのケアマネがどうしているのか知ることができない」(29%)と続く(図20)。質を向上したい気持ちは会員非会員ともに同じであっても、未加入者は会員に比べ、研修参加などの選択肢が少ない様子がうかがえる。

図20. 困っていること



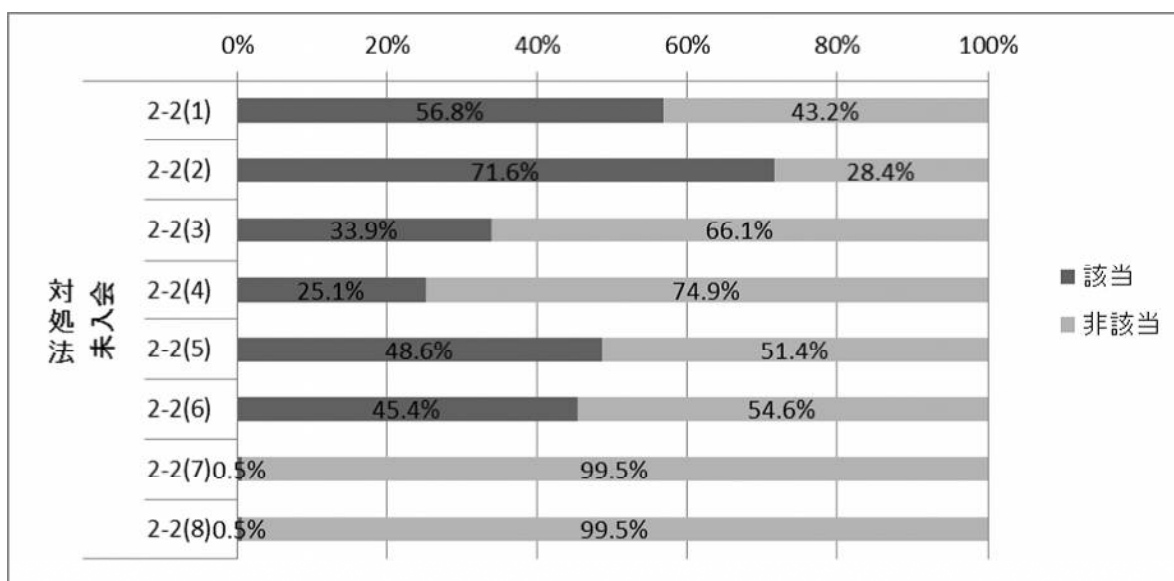
- 2-1(1)気軽に相談できる相手がない
- 2-1(2)厚生労働省の新着情報などが手に入りにくい
- 2-1(3)厚生労働省などの新着情報をゆっくり読んで理解する時間がない
- 2-1(4)スキルアップを図りたいと思うがなかなかできない
- 2-1(5)自分の専門分野以外の知識の不足
- 2-1(6)よそのケアマネがどうしているのか知ることができない
- 2-1(7)保険者に対して、現場の意見が言えない
- 2-1(8)特になし
- 2-1(9)その他

(9) 困っていることへの対処法 未入会者・退会者

対処法の回答数1位は「職場の同僚・上司に相談」(71.6%)だった。この結果は、人数の少ない事業所では、対処できる確率が低くなり、一人の場合対処できない場合があることが想定される。2位は「インターネットで検索」(56.8%)であった。3位に「地域包括支援センターに相談」(48.6%) 4位の「行政に相談」(45.4%)は(図21)、ケアマネジャーの職業的地位が確立されていない未熟さを感じさせる。

プロとして、現場の実践の積み上げの中で、理論化し均一化し、質の向上を図っていく必要性が示唆された。

図21. 困っていることの対処法



- 2-2(1)インターネットで検索
- 2-2(2)職場の同僚・上司に相談
- 2-2(3)他の専門職に相談
- 2-2(4)他事業所の介護支援専門員に相談
- 2-2(5)地域包括支援センターに相談
- 2-2(6)行政に相談
- 2-2(7)特に何もしない
- 2-2(8)その他

(10) 自由記載から

内容別では、会員数に関しては5件、会計に関しては3件、日本協会との関係に関して3件、理事会や運営委員会に関して6件の意見があった。

具体的な活動についてのご提案は、研修に関しては、開催場所に関して8件、研修内容に関して8件、開催曜日に関して2件、研修費に関して6件、などととも、感謝の意見が多数あった。

提言に関しては10件、情報・広報に関して9件、会員の交流に関して7件、主任ケアマネに関して10件、アンケートや調査に関して3件が寄せられた。

自由意見(一部)

- 様々な活動たいへんおつかれ様です。活動状況をいつもまとめてお送りいただきありがとうございます。
- 余り参加出来ていませんが、魅力のある研修会をいつもいただいていると感じています。ケアマネジメントの必要性・価値などを検討・議論できる場であって欲しいです。
- 毎回毎回楽しい研修をして頂き、感謝しております。施設ケアマネをNsと兼務しておりますが、中々在宅復帰できず（特に認知症の方など）施設を転々とさせてしまっており、これでよかったのか方向性間違いはなかったのか、日々考えさせられます。
- 入会に対して最初は考えましたが、入会して沢山の資料、研修をお知らせが分かり入会して良かったと思います。
- 日頃のご活躍に頭の下がる思いで感謝致しております。有難うございます。会員を増やすには入会しやすい金額と内容の工夫が必要かと考えます。職能団体として提言していく必要性は益々大になると考えます。会員として微力ながら共に歩んでいきたいと思っております。今後共宜しくお願

申し上げます。

- 会員として、まずは身近なCMIに知ってもらうことをしていこうと思ってます。また、CMA Tの研修に参加したいので参加出来る職場作りもしていきたいと思えます。今後も研修や会報等楽しみにしています。協会の方々のおかげでなんとか仕事を続けられています。
- 新任介護支援専門員の研修はフォローアップとしてとても勉強になります。制度改正の情報・研修についても早期に正確な内容で助かります。
- 情報源として、また各研修の取りくみをして下さり大きな存在です。ありがとうございます。
- 今年入会しました。施設でのケアマネをやっておりますが情報が少なく、入会したおかげで研修に参加でき、情報が入りとても助かります。今後共々よろしくお願いします。
- 楽しい会報いつもありがとうございます。研修も熱心に開催していて嬉しく思います。会に入っていることで情報がいち早くわかると思えるので安心感があります。
- 各研修会や制度の改定などの情報をいち早く発信していただき、協議会に加入後、研修に参加する機会も増えました。その結果、職場でも情報を発信する事が出来、早めの対策が取れるようになっていると実感しています。今後も更なる発信源として期待しております。
- 加入率がどの程度かわかりませんが、特に実際に仕事をしているケアマネさんには是非入会したいと思える組織であってほしいです。私自身入会して長いのですが、最初の頃に比べずいぶん力をつけてきている組織との実感があります。委員の皆様へ感謝！ 私も少し力になれると思うのですが、現場に追われる毎日で……。
- 運営委員として活動して下さっている皆様ありがとうございます。いろいろと希望を出し、勝手に言っただけで申し訳ありません。ケアマネジャーの質向上にむけての取り組みを続けて頂けますようお願い申し上げます。運営委員が増えますようお祈り申し上げます。
- 一番、信頼のできる会だと思っております。今後も期待しております。
- 医療・福祉系の資格をもち、様々な経験をもつケアマネジャーの集団が、個々の力を結集していけば、歴史は浅くても存在感のあるすばらしい協議会になると思っております。主任ケアマネになるための条件を考えると、協議会の中で格差が出てくるのは仕方のないことなのか、会員同士が共に向上していけるのか、運営面で難さが生じてくるのではと、将来のことをあれこれ考えています。
- ミニ研修会や会報等、身近でいつも役にたっています。東京都への提言や必要な事を必要な時期にズバツと言っただけ、スバラシイと思っております。独居加算や医療連携に関してどれぐらいとれているのか？ 他区での状況を聞いてみたいと思えます。
- ミニ研修会は参加しやすいテーマなので有難いです。今後も継続をお願いします。「管理者と役割と責任」などを希望します。
- ミニ研修会で何度もお世話になり、ケアマネの仕事が始めたころには本当に役立ち「力」になりました。
- ケアマネの研修開催は毎回とても楽しみにしております。どのテーマもとても仕事を行っていくうえでとても助かっています。ありがとうございました。
- ケアマネジャーのための研修は、日々の業務に役立てています。今後も続けていってほしいと思えます。宜しくお願い致します。
- ケアマネジャーとしての業務の傍ら、協議会の業務をこなしている運営に携わっている方々に敬意を表します。一人ケアマネや単独で事務所を起こしてケアマネをしている人にとっては、協議会から発信されている情報は、非常に有難いものと思えます。
- けあまねTOKYOはじめ、広報紙の中で紹介されるひとりひとりのケアマネジャーの声に力をもらえます。アンケートの数についてもその中のひとりひとりの数の集まりだと感じられるのは広報の方がそのひとりだからと思えます。私は現在前任者の退職により事業所でただ1人のケアマネジャーとなり管理者も引き受けております。唯一の情報源なので助かっています。
- がんばれ！！
- いつも研修等の企画ありがとうございます。

- いつもとても勉強になる先生をまねいて研修をして下さり感謝しています。研修でいつも年配の人（私も含め）が多く、若い方の入会率を気にしています。心配しなくて良い状況なのでしょうか。
- いつもたいへん感謝しています。今後も研修等に参加させていただきます。
- ・法改正に向けたキーワードのタイムリーな研修会を感謝しています。
・ミニ研修会も専門性を高め合えるよい機会と捉え参加しています。

4. まとめ

CMAT への期待は、第一には会員・未入会共に自らのスキルアップの場であった。しかしそれだけではなく、「制度検討・提言」、「同職種・他職種の機関としての連携」など、個人の専門職の力だけでは行えない「団体」の活動力であった。

会員には、CMAT は会費に相当する価値があるものであると、概ね良好に評価され、CMAT の各委員会の行っている活動も「やってほしい活動」に挙げられていた。その反面、未入会のケアマネジャーには、活動の具体的な内容やそのメリットが知られていないことが推察された。職能団体の活動の意義や入会することでのメリットなどのきめ細かい活動の紹介や勧誘が必要と考えられた。また未入会のケアマネジャーは経験年数も浅く、「自分の専門分野以外の知識の不足」（53.6%）を感じ、「厚生労働省などの新着情報をゆっくり読んで理解する時間がない」（53%）ことから、今後それを補てんするような活動も行っていくことが、会員拡大につながるものと期待される。

未入会のケアマネジャーが困った時に「地域包括支援センターに相談」（48.6%）、特に4位「行政に相談」（48.6%）と言う結果は、専門職が、素人にどうしたらよいですかと聞いている状況である。このことが、ケアマネジャーの専門性が未確立であることや地位の低さを物語っている。医師、看護師、薬剤師等が行政に「このメス（薬）使ってよいですか」と尋ねるのであろうか。制度の成り立ちが関係しているにせよ、改めて、プロとして専門職同士切磋琢磨することの重要性をケアマネジャーが自覚できるかどうか、この専門職を継続していく価値があるかの要になるものと考えられる。

地域包括支援センターの主任ケアマネジャーは、間接的にケアマネジャー支援をできたとしても居宅介護支援事業所の本当の苦労はわかりかね、ましてや、行政は、厚生労働省の通達の給付の適正化にかかわる部分を最優先に読み込み、ひっ迫した状況の現場に即した実践的な自立支援の解釈に及ばないのが多くの場面での実態である。ケアをマネジメントするプロとして、任されているのは私達ケアマネジャーであり、現場の実践の積み上げの中で、理論化し均一化し、質の向上を図っていくべきはほかでもなく自分たち自身であるという自覚をもって、今後のCMATの活動をより一層発展させるべきであると考えます。

謝辞

本調査研究を行うにあたり、会員の皆様、会員ではない東京都内の介護支援専門員の皆様、地域連絡会、ケアマネジャーの会など、東京都内の多くの介護支援専門員の皆様にアンケート調査のご協力をいただきました。また、東京都介護支援専門員研究協議会の広報委員会、事務局の皆様には、周知や郵送物の発送・受領などのご協力をいただきました。このように多くの皆様のご協力と励ましを頂きましたことにより、本調査を実施・完了し、このたびご報告ができました。皆様に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。